



Action against Child Exploitation
Annual Report
2014

特定非営利活動法人 ACE

2014 年度 年次報告書



あたたかいご支援、ありがとうございます！

ACEは今年度も、インドとガーナの活動を通じて、子どもたちを危険な労働から守り教育の機会を実現することができました。国内では講演活動や様々なイベントを通じて、児童労働問題に対する意識を共有し、エシカルな消費やビジネス、政府への働きかけを通じて、問題解決に向けた行動を呼びかけることができました。2014年10月には、ACEの生みの親ともいえるインドの人権活動家カイヤシュ・サティヤルティさんがノーベル平和賞を受賞し、児童労働や子どもの権利に対する国際的な関心も高まりました。



ごあいさつ

「一歩前進」

ACEをご支援いただいている皆さまに感謝を込めて年次報告書をお届けいたします。今回ご報告させていただく2014年9月から2015年8月の1年間は、実は代表・事務局長がそれぞれ1月、5月に出産のため休暇を取るといふ、ACEにとって大きなチャレンジのあった年でした。内部の事情ではありますがコントロールが難しいそのような環境下にACEが置かれるとわかったため、組織内のチームワークやコミュニケーションを向上させるための研修に外部の協力者の方々のお力を借りて取り組んできました。その結果、活動が滞りなく行われただけでなく、過去最高の収入額となり、その取り組みが国際協力NGOセンターの組織強化大賞にて「女性スタッフの登用・活躍部門」で表彰されました。スタッフの中で女性が多数を占めるのはACEの事務局だけでなく、NGO業

界全体でも多く見られます。そのような中でトップ2人が産休・育児休暇を取っても組織は成長できる、というメッセージを発信できることを、とても嬉しく思っています。

児童労働の解決に目をむけますと、2015年9月に持続可能な開発目標が国連で採択され、その目標8のターゲット7に「2025年までにすべての形態の児童労働を終焉させる」ことが入りました。これは前回のミレニアム開発目標にはなかった表現であり、解決に向けた大きな一歩です。課題はその目標に向け、どれだけ決意を高め、リソースを動員できるか、です。児童労働のない未来のため、ここからは新ゴールに向かうACEの第二創業期と考えACEを支えてくださる方々と共に目標達成に向かい突き進む所存です。今後とも皆さまのご協力、ご支援を賜れますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

ACE 代表 岩附 由香



チームの力を結集し、2025年の目標達成をめざして

今期はインドとガーナで合計462人の子どもたちを児童労働から解放し、教育の機会を実現することができました。コットンとカカオ、それぞれの生産地域において児童労働が目に見える形でなくなり、行政機関を含む地域の人たちの意識や行動が変化していることが継続した成果につながっていると感じています。現地での取り組みが、日本の企業との連携の発展にも確実につながっていて、日本にいるスタッフだけではなく、インド、ガーナでそれぞれ活動を支えている現地パートナーのスタッフをはじめ、連携している企業の方々、その他日頃からご支援いただいているみなさまなど、多くの方々の努力

の賜物であり、心から感謝を申し上げます。私事になりますが、今期は初めての出産に伴い産休・育休を取らせていただきました。代表の岩附も同じ期に産休・育休を取得し組織としては激動の年度ではありましたが、過去最高収益を達成することができ、チームの力を強く実感しました。支えてくれたスタッフやインターンに感謝しています。

国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」にも「2025年までにすべての児童労働を終わらせる」ことが目標として掲げられました。あと10年で達成できるよう、より一層チーム一丸となって取りくんでまいります。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。

事務局長 白木 朋子






表紙写真について:

ACEの支援地の一つであるガーナ共和国アシャンティ州アチュマ・ンブニャ郡カロゴ村の子どもたち。ガーナではこの一年間で190人の子どもが労働をやめ、学校に通えるようになりました。

ACEの活動理念と戦略

ACE(エース)は、世界中のすべての子たちの権利が守られ、希望を持って安心して暮らせる社会を実現するため、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力NGOです。カイラシュ・サティヤルティさん(2014年ノーベル平和賞受賞)が呼びかけた世界的なムーブメント「児童労働に反対するグローバルマーチ」を日本でも実施するため、1997年に学生5人で設立しました。

 ビジョン	 ミッション	 バリュー
ACEの目指す社会	ACEの使命	ACEの価値観
子どもの権利が保障され、すべての子どもが希望を持って安心して暮らせる社会を目指します。	目指す社会実現のために、市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組みます。	1. 子どもの利益を最優先します 2. 市民の力を信じます 3. ネットワークを最大限に活かします 4. フェアで自立した組織を追求します 5. 成長できる場でありつづけます

中期ビジョンと中期戦略

ACE は目指す社会の実現に向け、2016年までの中期ビジョンと3カ年の中期戦略を策定し、インド、ガーナ、日本で活動しています。

中期ビジョン	児童労働から抜け出し、適切な教育の機会を得て、権利を回復する子どもが増えている	子どもの権利に関する意識が高まり、児童労働等の権利侵害から子どもを守る運動が国内外に広がっている	児童労働の解決のための選択肢として、フェアトレードやエシカル消費、ACEの活動を支持する市民の行動が広がる	児童労働がないことを目指した、エシカルなビジネスを実践する企業が増える	人的・財政的支援が集まり、市民からの信頼を得て、社会的責任を果たしながら成果をあげている
中期戦略	児童労働から子どもを救出する“ACE モデル”プロジェクトを拡大し、教育を受けられる子どもを増やす	児童労働問題の重大性・緊急性への理解を市民～国際レベルで高める	児童労働を撤廃・予防するビジネスを浸透させ、それを支持する消費者を増やす	児童労働がない社会を支持するコミュニティを創る	

組織概要 (2015年8月31日現在)

名称 : 特定非営利活動法人ACE
設立年月 : 1997年12月1日 発足
 : 2005年8月8日 東京都よりNPO法人に認証
 : 2010年3月31日 国税庁より認定NPO法人として認定
 : 2015年1月19日 東京都より認定NPO法人として認定
事務所所在地 : 東京都台東区東上野1-6-4 あつきビル3F
代表者 : 岩附 由香
財産規模(総収入) : 8,185万円(2014年度)
職員数 : 専従8人 非専従2人 インターン6人
会員数 : 正会員142人 賛助会員86人
 法人会員24企業・団体
寄付者数 : マンスリーサポーター419人
 個人134人 法人93企業・団体
事業内容 : 子ども支援事業 アドボカシー事業
●役員
啓発・市民参加事業 ソーシャルビジネス推進事業
理事: 岩附 由香 小林 裕 白木 朋子 新谷 大輔 安永 貴夫
監事: 大石 貴子 矢崎 芽生

●評議員
 ※年1回の評議員会にて組織運営や活動へのアドバイスをいただいています。

生駒 芳子	一般社団法人フューチャレーションワオ 代表理事
江森 孝至	連合総研 主任研究員
小城 武彦	株式会社日本人材機構 代表取締役社長
奥津 雷三	会社員
黒田 かをり	一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事
郷野 晶子	UAゼンセン 国際局 局長
坂本 文武	大正大学 地域創生学部 准教授
桜田 高明	ILO(国際労働機関)理事、連合 国際顧問
鈴木 宏二	団体職員
蘭田 綾子	株式会社クレアン 代表取締役
長坂 寿久	逗子フェアトレードタウンの会 代表理事
並河 進	電通ソーシャル・デザイン・エンジン 代表
萩原 なつ子	立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授、認定NPO法人日本NPOセンター 副代表理事
長谷川 真一	ILO活動推進日本協議会 専務理事
初岡 昌一郎	姫路獨協大学 名誉教授
樋原 ひかる	Ena Communication Inc. 学びの場のデザイナー
古谷 由紀子	サステナビリティ消費者会議 代表
堀内 光子	公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 理事長
渡邊 智恵子	元ILO(国際労働機関)事務局長補 株式会社アバンティ 代表取締役

わたしたちが「児童労働」問題に取り組む理由

○児童労働とは

児童労働とは、義務教育を妨げる労働や法律で禁止されている18歳未満の危険で有害な労働のことです。国連「子どもの権利条約」や国際労働機関(ILO)が定めた「最低年齢条約(ILO第138号条約)」と「最悪の形態の児童労働(ILO第182号条約)」などの国際条約に基づき、各国の法律で禁止されています。

○児童労働の判断基準(「子どもの仕事」との区別)

「児童労働(Child Labour)」とは、子どもが働くことすべて指すのではなく、学校に通いながら家の仕事を手伝うなどの「子どもの仕事(Child Work)」と分けて考えています。

児童労働 = Child Labour

- 教育を妨げる労働(特に義務教育が受けられない)
 - 健康的な発達を妨げる労働(長時間労働、心身の病気や怪我)
 - 有害危険な労働(農薬や有害物質にさらされる作業、高所や深海での危険作業)
 - 搾取的な労働(買春・債務労働、子ども兵士など)
- ※ひとつでも当てはまれば「児童労働」です。



子どもの仕事 = Child Work

- 教育を受けることができる
- 子どもの年齢や成長に見合っている
- 健康的な成長を助け、責任感や技能を身につけることができる仕事



○1億6800万人、世界の子ども9人に1人が児童労働をしています

2013年に国際労働機関(ILO)は、1億6800万人、世界の子ども(5~17歳)の9人に1人が児童労働をしているという推計を発表しました。2000年と比べ、世界全体で児童労働者は7800万人減りましたが、このままのペースでは、2020年になっても1億人以上の子どもが児童労働をしている計算になります。

○世界の共通目標に「2025年までに児童労働の撤廃」が盛り込まれました

2015年9月の国連総会で、世界が2030年までに達成することをめざす新たな国際目標「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。SDGsは、世界が直面するさまざまな問題の解決を目標とし、途上国だけでなく、先進国の政府や企業、市民ひとりひとりの取り組みが求められています。その17あるうちの目標8「Direct work and Economic Growth」(適切な良い仕事と経済成長)のターゲットのひとつ(8.7)に「2025年までにあらゆる形態の児童労働を終焉させる」ことが盛り込まれました。世界各国が取り組んで行くべき課題のひとつに「児童労働」が加わったのです。2025年の目標の達成に向けて、今まで以上に、市民、企業、そして政府を含め、問題解決へ向けた取り組みを加速させなければなりません。

ターゲット 8.7 の内容

Take immediate and effective measures to eradicate forced labour, end modern slavery and human trafficking and secure the prohibition and elimination of the worst forms of child labour, including recruitment and use of child soldiers, and by 2025 end child labour in all its forms

訳：

強制労働を根絶し、現代の奴隷制と人身売買を終了し、子ども兵士の使用を含む最悪の形態の児童労働を禁止及び撤廃するために、迅速かつ効果的な措置を取り、2025年までにすべての形態の児童労働を終焉させる。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



ACEの生みの親、 カイラシュ・サティヤルティ氏が ノーベル平和賞を受賞

2014年、史上最年少の受賞となったパキスタンのマララ・ユスフザイさんと共に、インドの人権活動家であるカイラシュ・サティヤルティさんがノーベル平和賞を受賞しました。カイラシュさんは、30年以上にもわたり世界の児童労働問題に取り組み続けてきた、この分野の主導者です。それと同時に、カイラシュさんがいなかったらACEも生まれていなかったという、いわば生みの親でもあります。

1997年当時NGOでボランティアをしていた岩附が、「児童労働に反対するグローバルマーチ（Global March Against Child Labour）」を世界中で行おうというカイラシュさんの呼びかけ文を「翻訳してきて」と頼まれたことが初めの出会いです。そのマーチを日本でも実施したいと集まった代表の岩附、事務局長の白木、副代表の小林を含む学生5人でACEが結成され、1998年3～4月にはインドでグローバルマーチに参加、初めてカイラシュさんと対面しました。それ以来、グローバルなキャンペーンや、カイラシュさんが創設した団体、BBAを通じた支援、またACEのNPO法人化の記念事業に来日していただくなど、関係が続いています。ノーベル平和賞受賞者の発表があった2014年10月10日の夜には、ACE事務所宛てにテレビ、新聞各社からの取材が殺到し、その日のNHKやテレビ朝日のニュースでは岩附のインタビューが放送されました。



ノーベル賞のメダルを掲げるサティヤルティ氏
© The Nobel Foundation

2014年 ノーベル平和賞受賞 カイラシュ・サティヤルティ氏



サティヤルティ氏を囲むマーチ参加者

「カイラシュ・サティヤルティ子ども財団」創設者、「児童労働に反対するグローバルマーチ」名誉会長。

1954年1月11日、インド、マディヤ・プラデシュ州ビディヤ生まれ。幼少期に学校の正門前で靴磨きをする親子と出会い、学校に通う自分との違いに疑問を抱きはじめる。1980年、26歳で電気技師をやめ、「Bachipan Bachao Andolan (BBA、ヒンディー語で「子ども時代を救え運動」)を設立。児童労働や強制労働を強いられる子どもたちを救出し、社会復帰のための教育や訓練、法的救済に取り組んできた。これまでに救出した子どもの数は8万5000人以上に上る。

「児童労働に反対するグローバルマーチ」の構想を提案、

1998年に5大陸で市民を巻き込みマーチを実現。これが契機となり、1999年にILOの第87回総会で「最悪の形態の児童労働条約」が採択された。「教育のためのグローバルキャンペーン」の創設者として、各国の教育支援動員を推進し、市民社会運動の成功事例をつくった。また、児童労働のないカーペット製品を認定する国際非営利団体「グッド・ウィーブ (Good Weave)」を創設。消費者やビジネスセクターの視点や行動を変えることで、児童労働をなくす取り組みを推進してきた。

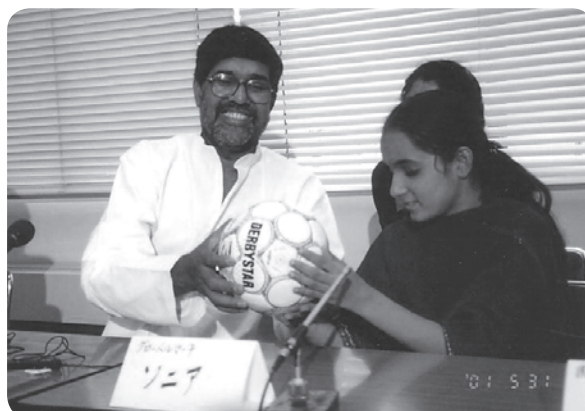
2014年、「子どもや若者の抑圧、またすべての子どもの教育を受ける権利に対する闘い」の功績を認められ、マララ・ユスフザイさんと共にノーベル平和賞を受賞した。

カイラシュさんとともに 日本での啓発・世論喚起にも一役

カイラシュさんは、2001年5月に、インドでサッカーボール縫いをしていた元児童労働者のソニアさんとともに来日。翌2002年にアジアで初めてサッカーワールドカップ日韓大会が開催されるのに合わせて、サッカーボール産業における児童労働の問題について呼びかけるため、日本で記者会見を行いました。2005年11月には、ACEの「NPO法人設立記念シンポジウム」に登壇するため、元児童労働者のオム・プラカシュクンと来日。翌2006年には、アムネスティ日本の招きで、元児童労働者のスマン・クマール・マハトくんとともに、「児童労働反対世界デー」に合わせて来日し、「児童労働反対世界デー・キャンペーン」のシンポジウムや児童労働の撤廃を呼びかけるマーチなどに参加しました。



ACE 発足の契機となったグローバルマーチ in ジャパン



ソニアさんと会見に臨むサティヤルティ氏

カイラシュ氏のノーベル平和賞受賞を受けて

カイラシュさんがノーベル平和賞を受賞したことにより、児童労働や子どもの権利、子どもの教育に対する国際社会の関心が高まりました。国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」のターゲットのひとつにも「2025年までにすべての形態の児童労働を終焉させる」ことが含まれました。これらが追い風となり、国内外での、各ステークホルダーによる取り組みが拡大、前進し、ACEや児童労働に取り組む団体への支援が増えることが期待されます。カイラシュさんは1997年に「児童労働に反対するグローバルマーチ」の実施を呼びかける際、「児童労働がなくなるのは貧困が理由ではない。『政治的意志』が足りないからだ」と言いました。政府、企業、労働団体、消費者など、あらゆるステークホルダーがそれぞれの立場から、児童労働をなくすための「政治的意志」を持ち、行動を起こしていくよう、ACEは引き続き取り組んでまいります。

●カイラシュ氏受賞関連 掲載メディア

2014年

10月10日	NHK テレビ朝日	News Watch 9 カイラシュ氏 ノーベル平和賞受賞 「報道ステーション」 カイラシュ氏 ノーベル平和賞受賞について
10月11日	河北新報 四国新聞 神奈川新聞 朝日新聞 東京新聞 毎日新聞 毎日新聞 毎日新聞	サトヤルティさんも受賞 子どもへ深い愛 たびたび来日 デモや講演 搾取根絶アピール サトヤルティさん「子どもに教育を」たびたび来日、問題訴え 児童労働、搾取と闘う マララさんらノーベル平和賞 児童労働に関心持って 「日本で関心高まれば」、国内NPOメンバー「心強い」 子供の権利貫く、児童労働の認知に 若い世代に教育を
10月16日	NHK Yahoo!ニュース	解説委員室「くらし解説」 平和賞 児童労働をなくすために ノーベル平和賞のカイラシュ氏と、日本の児童労働問題NGOの運命的な出会い
10月17日	NHK BS	「キャッチ!世界の視点」 特集「ノーベル平和賞 児童労働をなくすために」
10月29日	J-WAVE	『JAM THE WORLD』

■ 子ども支援事業①：ガーナ・カカオ生産地域での取り組み

新たに4つの村で活動を開始。 190人の子どもが教育を受けられるようになり、 学校インフラも大幅に改善されました。

ガーナのカカオ生産地での児童労働をなくし、持続可能なカカオ栽培を通じて、カカオ農家が自立して生活できる村づくりを目指す「スマイル・ガーナ プロジェクト」を実施しています。

スマイル・ガーナ プロジェクトは、2009年から実施し、2014年8月までにガーナのアシャンティ州アチュマ・ンブニャ郡のクワベナ・アクワ、バソコ、ウルベグ、アナンスの4村で計250人の子どもが児童労働をやめて教育を受けられるようになりました。2014年9月からは新たに、同じ郡のカロンゴ村、ジュレソ村、タノドゥマセ村、ンスオテム村の4つの村でプロジェクトを開始し、子どもの保護、学校環境の改善、カカオ農家の収入向上を目指して活動をしています。プロジェクト前は201人の子どもが労働に従事していましたが、この1年間の活動を通じて190人の子どもが労働をやめ、学校に通えるようになりました。また家庭の経済状況が厳しい子ども49人に対し学用品を支給し、子どもたちは継続的に学習できるようになりました。学校のインフラについては、住民同士が協力したり、また行政への要請を通じて、教室の増築や中学校の新設が決定するなど、学校環境が改善されてきています。



学用品を支給された子どもたち(ジュレソ村)




ACEより支給した学用品



児童労働反対世界デーのイベントでスピーチをする学校の生徒(タノドゥマセ村)

●ガーナ・カカオ生産地の子ども支援活動「スマイル・ガーナ プロジェクト」の概要

対象地域（実施期間）	アシャンティ州 アチュマンブニョア郡 カロンゴ村、ジュレソ村、タノドゥマセ村、ンスオテム村（2014年9月～2016年8月）	
主な受益者	就学年齢（3～17歳）の子ども約3200人、カカオ生産農家約2600世帯	
パートナー団体	CRADA（Child Research for Action and Development Agency）	

※本プロジェクトの実施には、てんとう虫チョコの売上によるご寄付と、森永製菓株式会社、株式会社フェリシモ、株式会社ファンケルなどの企業と個人のみなさまからのチョコ募金を活用させていただきました。

住民の力で児童労働をなくし 子どもたちを守る活動を開始

住民のボランティアで組織する「子ども保護委員会(CCPC)」では、4つの村でメンバーが家庭訪問を行い親たちに働きかけた結果、190人が児童労働をやめ、学校に行くようになりました。子どもたちによって組織されたグループ「子ども権利クラブ」の活動では、学校に通う子どもたち自身が児童労働の危険性や、子どもの権利について定期的に話し合うようになりました。



子ども保護委員会のメンバー

住民、学校、行政と連携して 学校の環境を改善

プロジェクトを開始してから、学校運営委員会とPTA、そして長老会が協力し、学校のインフラ整備について話し合い、取り組んできました。その結果、カロンゴ村とジュレソ村では政府への要請を通じて教員用の住宅が建設されたため、遠隔地に住む教員が学校までの長い通勤をする必要がなくなりました。これまで小学5年生までの教室しかなかったカロンゴ村では新たに教室の増築が決まり、今後は6年生まで通えるようになります。中学校がなかったンスオテム村では、政府によって中学校が新設されることが決まりました。



教員住宅建設の様子

農業トレーニングのためのモデルファームを設置

農家がカカオの生産方法を学ぶファーマービジネススクールでは、模範となるカカオの栽培方法を体験的に学ぶことができるように、新たにモデルファームを設置しました。このファームを見ることで、教育を十分受けていない農家でも、雑草除去の方法や、植樹間隔の開け方、肥料や農薬の分量などについて理解できる工夫を施しました。トレーニング参加者には、新しいカカオの苗木を配り、これから寿命を迎える古いカカオの木の植え替えに役立ててもらいました。



モデルファームに苗木を植える、子ども保護委員会のメンバー



労働をやめて学校に通い始めた マメ・サラさん(8歳)

タノドゥマセ村の近郊に住むマメ・サラさん(8歳)は、家族とともにガーナ北部から移住し、2015年1月までお父さんと一緒にカカオ畑で働いていました。村の「子ども保護委員会」のメンバーがお父さんを説得したことで、学用品の支給を受けて学校に行くようになりました。サラさんは「学校に行って勉強したり遊んだりするのが楽しい」と目を輝かせていました。このように他の地域から移住をしてきた子どもは、学校の情報が不足しているために働いていることが多くあります。そのような家族や子どもに、学校に行くことをこれからも呼びかけていきます。

■ 子ども支援事業②：インド・コットン生産地域での取り組み

新たに2つの村で活動開始。 ナガルドーディ村は活動終了。

インドのコットン生産地域で、子どもを労働から守り教育を支援するとともに、住民が自ら児童労働のない村づくりができるよう自立を図る「ピース・インドプロジェクト」を実施しています。

2つの村で、248人の子どもが労働をやめて 教育を受けられるようになりました！

2014年4月からマッデラバンダ村とタティクンタ村で活動を行っています。村での啓発活動や就学支援などを通して、これまでに248人がコットン栽培などの労働をやめて教育を受けられるようになりました。そのうち141人がプロジェクトで運営する補習学校「ブリッジスクール」や職業訓練センターに通い、111人が公立学校に通えるようになりました。



子どもクラブのメンバーと現地スタッフ（タティクンタ村）

ナガルドーディ村が5年間の支援から卒業！ これからは住民の力で！

2010年から4年間プロジェクトを実施したナガルドーディ村では、2014年7月から1年間フォローアップを行い、住民主体で児童労働のない村づくりができるよう側面的にサポートしてきました。


プロジェクトで結成された住民ボランティアグループ「子ども権利フォーラム」は、州に公式な団体登録を行い、支援が終了した現在も、住民自らの力で村の改善に取り組み続けています。

また周辺の村で自分たちの経験やノウハウを知らせて、児童労働のない村づくりの普及活動も行っています。



「これからは児童労働のない村にしていきたい！」と手を挙げるナガルドーディ村の住民たち

●インド・コットン生産地の子ども支援活動「ピース・インド プロジェクト」の概要

対象地域（実施期間）	インド テランガナ州マハブナガル県マルダカル地区 ナガルドーティ村（2014年7月～2015年6月：フォローアップ） マッテラバンダ村、タティクンタ村（2015年4月～2018年3月）	 <p>アンドラ・プラデシュ州</p>
主な受益者	義務教育年齢（5～14歳）の子ども約1,720人、 15-17歳の女の子約240人、親や住民約9,600人（約2,070世帯）	
パートナー団体	SPEED（Society for People's Economic & Educational Development）	

※本プロジェクトの実施には、連合「愛のキャンパ」、日本教職員組合、UAゼンセン、グンゼラブアース倶楽部、ティ・ティ・パワーシステムズ・リミテッド日本事務所、花王ハートボケット倶楽部、アシックス労働組合などの企業・法人・個人のみなさまからのコットン募金を活用させていただきました。

住民や子どもグループを作って活動開始

マッテラバンダ村とタティクンタ村には、住民ボランティアによる「子ども権利保護フォーラム」や子どもによる「子どもクラブ」を設置し、子どもの権利に関する訓練などを実施しました。住民グループは、児童労働がないか畑の見回りを行うほか学校の子どもの就学状況を確認し、働く子どもが学校へ通えるよう家庭訪問による親との話し合いをするようになりました。子どもグループは、子ども同士で就学を呼びかけたり、定期的に会合を開いて子どもの問題を話し合うようになりました。



働いている子どもに子どもが「一緒に学校へ行こう」と説得する様子(マッテラバンダ村)

働いていた子どもたち 248 人の教育を支援

ふたつの村では「ブリッジスクール」を運営し、働いていたために学校へ通えなかった子どもが基礎学力を身につけて公立学校へ編入できるよう支援しています。また義務教育年齢を過ぎた女の子のための「職業訓練センター」を運営しています。これまでに、248人の子どもがコットン栽培などでの労働をやめ、ブリッジスクールや職業訓練センターに通ったり、村や周辺にある公立学校に就学できるようになりました。子どもが学校へ継続的に学習できるよう学校環境の改善にも取り組んでいます。



ブリッジスクールで勉強する子どもたち(マッテラバンダ村)

貧困家庭の親が収入向上に取り組むことで家計が安定

フォローアップを行ったナガルドーティ村では、仕事がなく困窮した家庭の親を対象に、畜産業などの起業支援を行いました。支援を受けた親は、ヤギ、羊、鶏などの家畜を増やして市場で売って収入を得たり、増えた収入でより利用価値の高い牛を購入して、牛乳を販売したりできるようになりました。また日用品や食品を販売する店を営んでいた夫婦は、資金を貯めて店を改築しビジネス拡大を試みるなど、独自の工夫で収入向上に取り組むようになりました。親が働き家計を安定させることで、子どもを働かせるのではなく、子どもの教育をサポートできるようになりました。



お店を改築して収入向上に取り組む夫婦(ナガルドーティ村)



笑顔で過ごせるようになったウルクンドゥさん

ブリッジスクールで勉強する様子

タティクンタ村に住む9歳の女の子、ウルクンドゥさんは学校に通ったことがなく、親と一緒にコットン畑で働いていました。親は「娘はすぐに結婚して家を出るから教育を受ける必要はない」と考えていたため、現地スタッフは村の住民と一緒に何度も家庭訪問をして、女の子も等しく教育を受けることの重要性などについて親と話しました。始めはなかなか理解を得られませんでした。親は徐々に理解し、ウルクンドゥさんはブリッジスクールに入学できるようになりました。現在は毎日ブリッジスクールに通い、「勉強できてとてもうれしい」と言っています。友達もでき、働いていた時とは一変して、笑顔で元気に過ごしています。



コットン畑で働いていた時のウルクンドゥさん

■ ソーシャルビジネス推進事業

カカオ産業での企業との取り組みが前進しました。 国際フェアトレード認証チョコレートの通年販売が実現！

カカオ産業で児童労働をなくすことをめざした「しあわせへのチョコレートプロジェクト」の一環として、ガーナのカカオ生産地で「スマイル・ガーナ プロジェクト」を行うほか、カカオやチョコレートを扱う企業や消費者が児童労働の解決に貢献できるよう、さまざまな連携を進めています。

森永製菓による 国際フェアトレード認証チョコレートが 通年販売になりました



ガーナの支援地のカカオが使われた
森永チョコレート
< 1チョコ for 1スマイル >

2011年に始まった、森永製菓の社会貢献活動「1チョコ for 1スマイル」を通じた、チョコレートの売上によるガーナの活動支援が継続しました。これらの支援を受けて「スマイル・ガーナ プロジェクト」を実施している村で栽培されたカカオを原料に使用し、かつ「国際フェアトレード認証」を受けたチョコレートの販売が2014年に期間限定で販売されましたが、2015年1月には商品がリニューアルし、新たに通年販売されるようになりました。全国のダイエー系列の店舗に並んだほか、消費者からの「取り扱ってほしい」との要望を受けて、ファミリーマートでも販売されました。ACEが中期戦略で目標に掲げてきた、「『児童労働のない』チョコレートが消費者の手の届きやすい場所で販売されるようになる」という目標が達成されました。

(※ 2016年7月現在では、森永製菓とACEのオンラインショップでの取り扱いのみとなっています。)

不二製油グループのサステナビリティレポートに、 代表岩附のコメントが掲載されました

生産地で児童労働が問題となっているパーム油やカカオを扱う企業として、不二製油グループは持続可能な原料調達に取り組んでおり、2014年6月に「有識者とのステークホルダーダイアログ」を実施。事務局長の白木が参加しました。2015年はそのフォローアップとして、代表の岩附によるステークホルダーのコメントが同社サステナビリティレポートに掲載されました。ガーナやコートジボワールにおける児童労働問題の解決への貢献や、資材購入先であるメーカーのエシカルな商品開発のサポートやサステナブルな原料調達の増加などへの期待を述べました。



コメントが掲載された
不二製油のレポート

カカオ関連のその他の活動

READYFOR? のご支援を通じて、 ガーナで健康診断を実施しました

2015年2月14日～4月10日に、クラウドファンディング READYFOR? にてプロジェクトを立ち上げ、「ガーナのカカオ生産地でおとなが健康に働けるよう健康診断を実施」するための支援を呼びかけました。おかげさまで目標金額の200万円を大幅に超える、243万8千円のご支援をいただき、6月にガーナの村で健康診断を実施することができました。これまで一度も健康診断を受けたことがなかった人たちを含む、のべ219人が血圧測定、マラリア診断、尿検査、問診などを受けることができ、あらためて健康について考える機会となりました。目標金額より40万円多く寄付が集まったため、クリニックのないカロンゴ村とンスオテム村に救急箱を贈呈しました。



健康診断の様子 (カロンゴ村)

インドのコットン生産地での 企業との連携が始まりました

コットン産業で児童労働をなくすための「コットンのやさしい気持ちプロジェクト」では、現地で子どもを労働から守る「ピース・インドプロジェクト」のほか、日本で企業や消費者が人権や環境に配慮したビジネスや消費ができるよう取りくんでいます。

インド支援地でコットンの 有機栽培の技術支援を開始

「ピース・インドプロジェクト」を実施したナガルドーディ村で、企業との協働により、コットン農家のための有機栽培の技術支援が始まりました。農民による協同組合が設立され、遺伝子組み換えではない種の配布や、有機肥料・農薬を自分たちで作って使用する栽培指導などが行われています。農民は、これまで化学薬品の購入に充てていた支出を抑えることができ、土壌も改善され、農薬による健康被害もなくなりました。完全な有機栽培に移行する途中の段階ですが、コットンが収穫され、今後原料としても使われる予定です。



ナガルドーディ村のコットン農家たち

インドコットンツアーを実施しました

2014年10月26日～11月1日の間、コットン・ファッション関連企業やエシカルビジネスに関心のある企業を対象に、インドのコットン生産地域を視察するツアーを実施しました。国内外から8名が参加し、「ピース・インドプロジェクト」を実施している村や、オーガニックコットンの生産や商品製造に取り組む企業を訪問しました。コットン栽培における児童労働の現状や改善のための活動、また企業との協働によるコットンの有機栽培の技術支援の現状、生産者や環境に配慮したコットンビジネスの可能性などについて理解を深める機会を作ることができました。ツアー参加後は、現地のオーガニックコットン企業との取扱いを検討したり、ACE支援地で女性自立を支援するビジネスを計画するなど、参加企業によるエシカルなビジネス実現に向けた進展がありました。



コットンツアー工場訪問での集合写真

コットン関連のその他の活動

ルミネのイベント「Re Closet(リクローゼット)」に参加

2015年1月24～25日、株式会社ルミネのチャリティイベント「Re Closet(リクローゼット)」が開催されました。このイベントは、クローゼットに眠る着なくなった洋服を回収して販売し、売上金全額を各種NPO団体に寄付することを目的としています。「my ソーシャルを見つけよう」をテーマとし、洋服を購入したお客さまが寄付する団体を選ぶ仕組みになっています。ACEも寄付先団体として参加し、展示などを行いました。ACEへの寄付金185,997円は、「ピース・インドプロジェクト」での女の子のための縫製の職業訓練センターの活動に活用させていただきました。ファッションの循環をテーマにしたイベントで、お洋服の出品者、購入者、来場者が、洋服を通して社会問題を考えるよい機会となりました。



Re Closet 販売・展示の様子

■ ソーシャルビジネス推進事業

エシカルなビジネスや CSR の推進に取り組みました。

私たちの暮らしの背景にある児童労働や生産者の人権問題、環境問題などの解決に目を向けた、エシカルな（「倫理的・道徳的」という意味）ビジネスや消費を推進するため、イベントや講演やセミナーなどを実施しました。

エシカルファッションカレッジ 2015 を開催しました！

2015年5月9日（土）と10日（日）、IID 世田谷ものづくり学校（東京都世田谷）で、2回目となる「エシカルファッションカレッジ」を開催しました。エシカルファッションカレッジ実行委員会主催で、ACEはその事務局を務めました。開催日は昨年より1日限りから「世界フェアトレードデー（5月9日）」と「コットンの日（5月10日）」の2日間に拡大し、エシカルな取り組みを行う32以上の企業・団体が参加。60以上のプログラムを提供し、1500人以上が来場しました。



フェアトレードやオーガニックコットンなどをテーマにしたファッションショー



テーマは「エシカル、持ちかえる」

暮らしの中でエシカルな視点を持つヒントを得て継続的にアクションを起こせるよう、ファッションだけでなく、食や暮らし、旅、廃棄物など幅広い分野からサステイナブルなライフスタイルについて学び体験できるイベントとなりました。フェアトレードやエシカルファッション、オーガニックなどに取り組んでいる国内外の企業・組織等が参加して、講義、シンポジウム、ものづくりを体験できるワークショップ、アクセサリーや食品などを購入できるショップ、展示、食堂など充実した内容でした。

ACE はワークショップや映画上映も実施

ACEはオリジナル教材「このTシャツはどこからくるの？」を使ったワークショップや、映画「バレンタイン一揆」の上映などを行い、暮らしの背景にあるコットン産業やカカオ産業での児童労働の現状や取り組みについて伝えました。また、事務局として、イベント全体の企画からボランティアスタッフのコーディネーション等、全体運営と統括も担当しました。



屋上で企業・NPOが体験型ワークショップなどを出展



ACEによるコットンワークショップ

CSR レビューフォーラムでの取り組み

異なる分野の NPO が集まり、企業の CSR の取り組みを共同でレビューし推進することをめざす「CSR レビューフォーラム」のレビュアーとして、代表の岩附と事務局長の白木が参加しています。「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ)」の ISO26000 分科会とのダイアログに継続的に参加し、「マテリアリティ」や「CSR と経営の統合」、「サプライチェーン」などをテーマに、企業の取り組みに対する NPO 側からのコメントを述べたり、意見交換に参加しました。個別企業のレビューとして、日本電気株式会社 (NEC) とのダイアログにも参加し、持続可能な社会づくりに貢献する企業の CSR 活動の強化と推進に取り組みました。



ダイアログの様子
(写真提供：グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン)

企業関係者向けセミナー等への講師派遣

企業の観点から、サプライチェーンの児童労働にどのように取り組むべきかについての講演も行っています。近年「ビジネスと人権」に注目が集まる中、経済人コー円卓会議日本委員会、ロイドレジスタークオリティアシュアランスリミテッド等の依頼を受けてセミナーでの講師を務めました。そのほか、行政、自治体、各種団体、教育機関等からの要請にも応じ、計 79 件の講演活動を行い、6,168 人の受講者に参加いただきました。

コラム

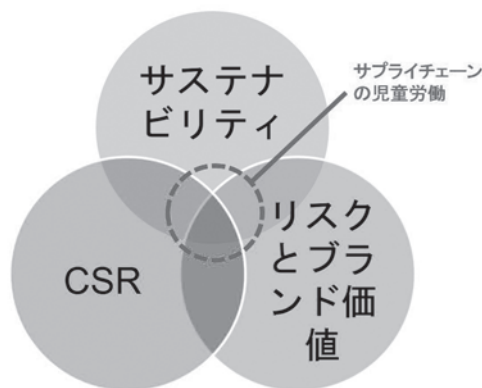
企業が児童労働に取り組む意義

企業としてサプライチェーンの児童労働をどう捉えるべきか。ここでは 3 つの視点を紹介したい。

1 点目はリスクとブランド価値である。特に BtoC の業態において企業のサプライチェーンに児童労働が見つかることはレピュテーションリスクになり、その後の株価や消費者の購買行動に影響を与える。

2 点目は CSR (企業の社会的責任) の中でも「ビジネスと人権」に対する国際的関心の高まりである。「ビジネスと人権に関する指導原則：国連『保護、尊重及び救済』枠組み」や ISO26000 などの国際ガイドラインでは、バリューチェーンの人権侵害も企業の責任の範疇と位置づけている。児童労働も人権侵害の 1 つとして多くの業種でサプライチェーンの上流で起こりうる課題として認識されている。

3 点目は「サステナビリティ」との関わりである。ここでは「世界」と「企業の事業活動」の 2 つの視点で考えてみる。2015 年 9 月に採択された国連「持続可能な開発目標」(SDGs) は 17 のゴールと 169 のターゲットからなる国際的に合意された「2030 年にあるべき世界の姿」である。この目標の達成に向けて具体的な行動を起こす資金が、政府からの拠出では不十分であるとの指摘があり、持続可能な社会の実現のために企業が果たすべき役割はこれまで以上に大きくなっている。この SDGs に「2025 年までにすべて形態の児童労働を終焉させる」ことが明記された。ゴール 12 に「持続可能な生産と消費を確保する」が入ったことも、企業の事業活動のあり方へ影響を及ぼすと考えられる。また日本企業にとっては、人口減少による国内市場の衰退、コモディティ化による価格競争などで成長が見込めず、海外市場へのチャレンジが迫られる中で、日本では考えられないような社会的課題と直面したり、気候変動やテロなどの影響など不確実性が高まっており、事業の継続という意味でのサステナビリティの難易度が高まっている。また世界においては企業の非財務情報の開示義務化の傾向が強まっており、ESG (環境、社会、企業統治) の情報が株主の判断を左右しはじめています。CSR だけではなく、ESG に配慮した CSV (共有価値の創造) による事業展開に、事業の継続性の活路を見出しているグローバル企業もある中、日本の企業の在り方が問われている。



■ アドボカシー事業

2つの教材が完成

「チョコッと世界をのぞいてみよう!」「このTシャツはどこからくるの?」

身近な製品を通じて児童労働の問題を学び、消費者としての問題解決に向けた行動を促すことを目的に、2015年に2つの新しいワークショップ教材の販売を開始しました。1月販売開始の「チョコッと世界をのぞいてみよう!」は、チョコレートを通じてアフリカの文化や貧富の問題にも触れることができます。2月に販売を開始した「このTシャツはどこからくるの?」はインドのコットン畑で働く子どもや日本の消費者、企業社長などになりきるロールプレイを通じて、エシカル(倫理的な)消費を学びます。教材の販売だけでなく、スタッフが教材を使い学校や各種研修でワークショップを行いました。



「チョコッと世界をのぞいてみよう!」



「このTシャツはどこからくるの?」

教材「このTシャツはどこからくるの?」が 「消費者教育教材資料表彰」優秀賞を受賞

ACEが開発したオリジナル教材「このTシャツはどこからくるの?—ファッションの裏側にある児童労働の真実—」が教育現場で役立つ優秀な教材を表彰する、公益財団法人消費者教育支援センター主催の平成26年度「消費者教育教材資料表彰」優秀賞に選ばれました。優秀賞受賞後の教材は、消費者教育の現場で実際に使用され、先生方の審査によって翌年最優秀賞教材が決定されます。



「消費者教育教材資料表彰」での講演

2012年12月に消費者教育推進法が施行され、従来行われてきたクーリング・オフなどの消費者が守られる権利だけでなく、持続可能な社会の実現に対する消費者の責任を学ぶことが重要視されるようになりました。私たちの身の回りには価格が安い商品の背景には、児童労働の問題が隠れている可能性があります。そのような事実を認識し、消費行動をひとつの投票行為ととらえ、社会を変える力にしたり、過度な消費の影響や持続可能な消費と生産を学ぶことなどが注目されています。家庭科などの教科書でもフェアトレードや児童労働が取り扱われるなど、教育の現場でも消費者教育が定着しつつあります。ACEでも、地域や自治体の消費生活センター等への講師派遣を行っています。

教員向けセミナー

「消費者教育授業パワーアップ講座」を開催



学校での授業案を発表する先生方

7月31日に教育関係者を対象に、「消費者教育授業パワーアップ講座 このTシャツはどこからくるの?」を開催しました。講座名にもなっている教材を用いて授業が行えるよう、ワークショップの体験、児童労働の現状とACEの取り組みや消費者としてできることの講義を行いました。また、学校での消費者教育授業の事例紹介を行い、最後は小学校、中学校、高校 & 大学に分かれた各グループが、生徒たちを巻き込んでどんな授業ができるのか考えて発表しました。石川県や広島県などの遠方からも消費者教育に熱心な先生方が集まり、情報交換する有意義な場となりました。ACEでは今後も消費者教育授業に役立つ教員や関係者向けのセミナーを実施していきます。

映画『バレンタイン一揆』の上映実績は23件、1,033人が参加

2012年に製作し、2013年に公開したドキュメンタリー映画『バレンタイン一揆』の自主上映会や講演とセットにした上映会を継続して実施しました。今年度は23件開催され、1,033人が参加しました。(累計で40都道府県で213件、参加者9,799人の実績となります。)

児童労働ネットワーク「ストップ!児童労働キャンペーン」

日本全国で

「児童労働に NO !レッドカードアクション」

ACE が事務局を務める児童労働ネットワークでは、5月5日から7月5日まで「ストップ!児童労働キャンペーン2015」を実施しました。国際労働機関 (ILO) が世界的に行っている児童労働に反対の意思を示す「児童労働にレッドカード!キャンペーン」を日本で展開し、ソーシャルメディアを通じて参加を呼びかけました。キャンペーン期間中は約6,000名が参加、Facebook ページは延べ13万人にリーチすることができました。6月12日の「児童労働反対世界デー」には、ILO 本部の呼びかけに応じて Twitter を通じて発信し、日本国内での取り組みを広く海外へ伝えることもできました。



ACEが講演で訪問した、アレセイア湘南高等学校の生徒たちと



内閣府前で署名を手に

ストップ!児童労働 50万人署名は 51万筆に達しました!

児童労働ネットワークは、2008年より児童労働への取り組み強化を日本政府に求める署名活動を行っています。

2015年1月から7月までの署名活動期間中には、全国47都道府県から51万3935筆の署名が集まり、累計では170万筆を超える結果となりました。

また、前年度に集めた署名を、2014年12月に内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省へ提出してきました。「持続可能な開発目標 (SDGs)」に「2025年までに児童労働を終わらせる」ことが盛り込まれたことから、引き続き児童労働ネットワークを通じて日本政府への働きかけを行っていきます。

市民ネットワーク for TICAD (Afri-Can)を通じたアドボカシー活動

ACE は、日本政府とアフリカ連合が定期的で開催する「アフリカ開発会議 (TICAD)」に対する市民社会からのアドボカシーを行うネットワーク「市民ネットワーク for TICAD (Afri-can)」(2014年3月設立)に参加しており、ガーナプロジェクトマネジャーの近藤が世話人を務めています。今年度は、2015年7月にエチオピアで行われた「開発資金会議」に参加し、アフリカ連合の職員と児童労働を含む開発課題について協議したほか、在日アフリカ外交団などと来年の本会議について定期的に意見交換をしました。アフリカは子どもの4人に1人が児童労働に従事しており、子どもに関わる諸問題が非常に深刻な地域です。Afri-canの活動を通じて、日本政府やアフリカ各国政府に児童労働問題の解決に取り組むよう今後も働きかけていきます。



アフリカ連合(AU)本部にて

■ 啓発・市民参加事業

「児童労働のない未来」を実現するために。 活動への参加の輪が広がりました！

様々な立場の方の協力を得て、児童労働の問題を伝え、アクションを促す機会を作ることができました。

協働企業・関係者と共に、 トークイベント「児童労働のない未来をつくろう会議」を開催



登壇者、参加者全員で「児童労働にレッドカード！」

2015年6月12日の「児童労働反対世界デー」当日に、東京の目黒にあるHUB TOKYOにて、トークイベント「児童労働のない未来をつくろう会議」を開催しました。並河進さん（株式会社電通 ソーシャル・デザイン・エンジン）をファシリテーターに、生駒芳子さん（ファッションジャーナリスト）、國料一成さん（リシュモン ジャパン株式会社 Chloe Digital & Special Project Director）、竹村伊央さん（Ethical Fashion Japan 代表）、八木格さん（森永製菓株式会社 菓子食品マーケティング部チョコレートカテゴリーマネージャー）をゲストスピーカーとしてお迎えし、会場全体で、「児童労働のない未来」を実現するために、一人ひとりにできることを考えました。

トークの中では、様々なセクターの横断的な動きが児童労働の認知を高めること、そして、このようなイベントを通じて児童労働の現状について伝えていくことが解決への第一歩となることが確認され、参加者からは「ACEと一緒に活動している方や企業の取り組み、そして社会の反応が確実に前進していることを感じ取れました。」などの声が聞かれました。

参加費が寄付になるチャリティセミナーに アバンティ渡邊社長、ライフネット生命出口会長が登壇

これからの「生き方」や「働き方」を考え、なりたい未来の実現に向かって、参加者自身が一步を踏み出すことを目指す連続チャリティセミナー「これからの私たち」を開催しました。

第1回

アバンティ渡邊社長にきく！
『私』を生きるヒント

2015年4月22日、日比谷図書文化館にて、日本でのオーガニックコットンのパイオニア、株式会社アバンティ代表取締役社長渡邊智恵子さんを講師にお迎えしました。渡邊さんのオーガニックコットンとの出会いから現在に至るまでのお話を通じて、生きていく上での「成功の秘訣」をうかがいました。子ども支援事業チーフ成田由香子とのトークでは、目標を忘れないこと、そして、一步を踏み出すことの大切さをお話いただきました。



渡邊智恵子さん

第2回

人・本・旅から学んだもの
～出口治明的教養の身に着け方～

2015年6月25日、グロービス経営大学院東京校にて、講師にライフネット生命保険株式会社の代表取締役会長兼CEO出口治明さんをお迎えしました。

出口さんの講演や代表岩附との対談を通じて、「人・本・旅」をキーワードに、人生を豊かに生きるヒントを教えてくださいました。参加者からは、『何かを勉強する・知ることは、自分の人生の選択肢を広げること』という話が印象に残ったなどの声が聞かれ、講演後に開催した交流会の中でも、参加者一人ひとりが自分には何ができるのかを考え、動き出そうとしている様子を感じられました。



出口治明さん(左)と代表の岩附(右)

「そのこ」の未来キャンペーン

「児童労働反対世界デー」である6月12日から8月8日を強化月間として、「そのこ」の未来キャンペーンを実施しました。詩人の谷川俊太郎さんがACEのために書き下ろしてくださった詩「そのこ」を通じて児童労働の現状を伝え、一人ひとりが意志を持ち、児童労働のない未来をつくるために一歩を踏み出すことを呼びかけました。支援を呼びかけるアンバサダーのご協力もあり、9月30日までにのべ65人、21団体・グループから814万6千円のご寄付をいただきました。キャンペーン2年目となった2015年は、新たな試みとしてインターネット寄付サイト「ジャパングビング」を活用し、支援額に応じてギフトをプレゼントしました。キャンペーン終了後には、寄付者限定で谷川俊太郎さんとの詩の朗読会を開催しました。



谷川俊太郎さんとの朗読会



グローバルフェスタ展示ブース
お手伝いいただいたボランティアの皆さん

グッズ販売を通じてひろがる支援の輪、全国へ

今年も全国各地の支援者・ボランティアの皆さんと一緒に、グローバルフェスタ JAPAN (東京)をはじめ、ワールド・コラボ・フェスタ (愛知)、地球市民どんたく (福岡)、ワン・ワールド・フェスティバル (大阪)、せんだい地球フェスタ (宮城) など全国のイベントに出展し、チョコレートをはじめとするグッズ販売や ACE の活動紹介を行いました。売上の一部がガーナ子どもたちへの寄付になる「てんとう虫チョコ」は販売を始めて7年になりました。2012年冬より、岩手県陸前高田市の就労支援施設「あすなるホーム」(社会福祉法人燦々会) にチョコの袋詰めと全国への発送作業をお願いしました。

「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」 全国2万人以上の氷室京介ファンクラブの ホワイトデーギフトに

「てんとう虫チョコ」は今年もオンラインショップ販売のほか、店舗や学園祭、社内販売会での販売は、団体購入など、50件近い企業、団体等の方々に販売や購入、ボランティア作業にご協力をいただき、1万6千パック以上のチョコレートをお買い上げいただいたことで、142万円の募金をガーナの活動に役立てることができました。今年には特に、活動趣旨に賛同してくださった歌手の氷室京介さんが、ホワイトデーギフトとして「てんとう虫チョコ」を活用していただき、全国2万人以上のファンクラブの会員の方々にもお届けすることができました。ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました!



氷室さんオリジナルパッケージの「てんとう虫チョコ」

「しあわせを運ぶ てんとう虫チョコ」にご協力いただいたみなさま

オンラインショップ販売のほか、店舗や学園祭での販売、団体購入、社内販売会など

購入や販売、ボランティアにご協力いただき約1万6千パックのチョコレートをご購入していただき142万円の募金をガーナの活動に役立てることができました。

(五十音順、敬称略)

ア・テ・スエ! / アシックスグループユニオン連合会 / アプレル洋菓子店 / グンゼ株式会社 / ソロプチミスト仙台 / タカシマヤ 一粒のぶどう基金 / フード連合 / フェアトレード&エコロジーショップ びーす / フェアトレード・ショップ風"s / ユナイテッドピープル株式会社 / リコー社会貢献クラブ・FreeWill / 株式会社アイビー・シー・エス / 株式会社アバンティ / 株式会社ジェーシービー / 株式会社スイートインストール / 株式会社セールスフォース・ドットコム / 株式会社テラスカイ / 株式会社丸屋本社 マルヤガーデンズ事業部 / 株式会社三井住友フィナンシャルグループ / 株式会社神奈川ナブコ / 株式会社大地を守る会 / 公益財団法人キープ協会 / 国際ロータリー第2650地区財団学友会 / 三菱商事株式会社 / 社会福祉法人 燦々会 あすなるホーム / 社会福祉法人はぐくみの里 就労支援施設ワークプラザひがし / 昭和産業労働組合 / 倉敷紡績労働組合 裾野支部 / 大和証券グループ / 長町遊楽庵びすた〜 / 日清オイリオグループ労働組合 / 福岡黒田ライオンズクラブ / 本門佛立宗 妙深寺 / 味の素冷凍食品労働組合 / 味の素労働組合 / 有限会社オーガニックフォレスト / 有限会社カフェスロー / 有限会社チェンジ・エージェンツ ほか

会計報告

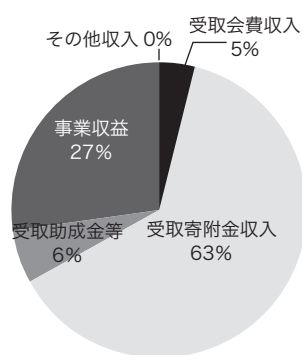
2014年度(2014年9月1日～2015年8月31日)

活動計算書

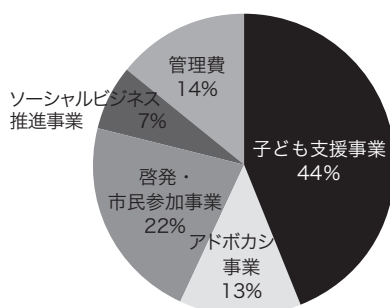
(単位：千円)

科目	2013年度決算 (後期)	2014年度予算	2014年度決算			達成率	昨年度比	2015年度予算
			本 体	世界の子どもの 権利基金	合計			
I 経常収益								
1 受取会費	3,810	4,508	3,594		3,594	80%	94%	3,864
正会員	1,710	1,890	1,404		1,404	74%	82%	1,344
賛助会員	2,100	2,618	2,190		2,190	84%	104%	2,520
2 受取寄付金	39,804	49,555	51,105	271	51,375	104%	129%	55,542
ACE111 募金 (一般寄付)	14,546	17,967	21,475		21,475	120%	148%	19,164
チョコ募金	17,896	23,988	21,701		21,701	90%	121%	24,154
コットン募金	6,222	7,600	7,888		7,888	104%	127%	12,223
チャイルドフレンドリー募金	27	0	42		42	-	154%	-
東日本復興応援募金	95	0	0		0	-	-	-
世界の子どもの権利基金	1,017	0	0	271	271	-	27%	-
3 取助成金等	6,588	9,150	4,656		4,656	51%	71%	14,623
4 業収益	17,906	20,138	22,162		22,162	110%	124%	20,222
5 の他収益	70	0	70		70	-	100%	0
経常収益計	68,178	83,351	81,587	271	81,858	98%	120%	94,251
II 経常費用								
1 事業費								
(1) 人件費	24,393	21,688	24,170		24,170	111%	99%	26,268
(2) その他経費	30,009	42,564	42,313		42,313	99%	141%	50,867
事業費計	54,402	64,251	66,482	0	66,482	103%	122%	77,135
2 管理費								
(1) 人件費	8,497	10,152	7,061		7,061	70%	83%	10,764
(2) その他経費	3,359	5,582	4,107		4,107	74%	122%	5,157
管理費計	11,856	15,733	11,167	0	11,167	71%	94%	15,921
経常費用計	66,258	79,985	77,650	0	77,650	97%	117%	93,056
III 当期正味財産増減額	1,920	3,367			4,138			1,194
IV 前期繰越正味財産額	4,841	6,761			6,761			10,899
V 次期繰越正味財産額	6,761	10,128			10,899			12,093

2014年度 収入内訳



2014年度 支出内訳



財務状況の分析

全体収入は、前年度比20%増、過去最高収益の8,185万円となりました。
収入の6割を占める寄付収入は、クラウドファンディングの成功や大口寄付の獲得など、前年度比29%増の5,137万円となりました。
当期正味財産増減額も413万円プラスで終えることができました。

しかしながら、今年度は支援地を拡大(ガーナ4村、インド2村)し、現地の支出が増える中、2014年年末に急激な円安となり、現地でのプロジェクト費の削減や、ガーナの車両購入の延期など、為替の影響も大きく受けました。

今後は、為替の影響を受けず安定した組織運営を行うため、継続的な収入となるマンスリーサポーターの獲得や、ガーナ・インドの支援地産力カオヤコットンの商品化による事業収入など、新たな財源の確保に力を入れていきます。

貸借対照表

(単位：円)

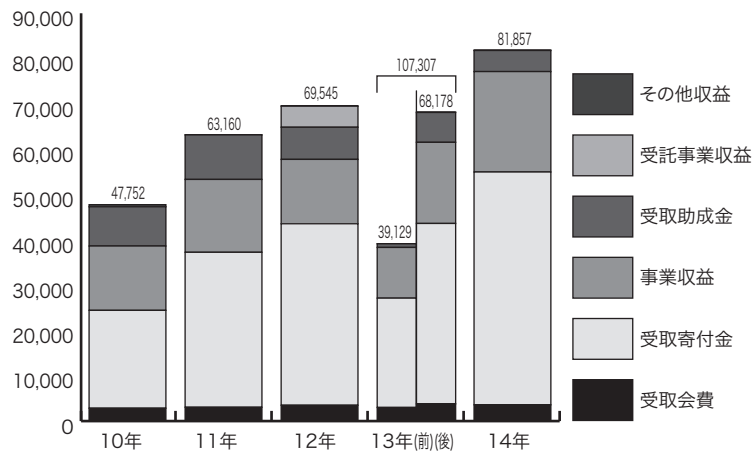
I 資産の部	
科目	金額
1. 流動資産	14,488,995
現金・預金	12,187,108
現金	432,133
普通預金	11,367,442
郵便振替口座	387,533
売上債権	941,102
売掛金	941,102
棚卸資産	1,185,378
その他流動資産	175,407
前払費用	131,682
立替金	43,725
2. 固定資産	1,313,084
建物附属設備	113,083
車両運搬具	1
敷金	1,200,000
資産合計	15,802,079
II 負債の部	
科目	金額
流動負債	1,302,957
未払金	399,731
前受金	52,100
預り金	124,426
未払法人税等	70,000
未払消費税	656,700
固定負債	3,600,000
預託金	3,600,000
負債合計	4,902,957
III 正味財産の部	
科目	金額
正味財産合計	10,899,122
前期繰越正味財産	6,761,202
当期正味財産増減額	4,137,920
負債及び正味財産合計	15,802,079

<重要な会計方針>

1. 資金の範囲は、現預金および短期金銭債権債務です。
2. 棚卸資産は、最終仕入原価法により計上しています。
3. 有形固定資産は、法人税法の規定に基づき定率法により償却しています。
4. 現金のうち、19474円は外貨であり、期中レートにより換算し、期末日にTTMにより評価しています。
5. 消費税は、税込経理により処理しています。

収入の推移

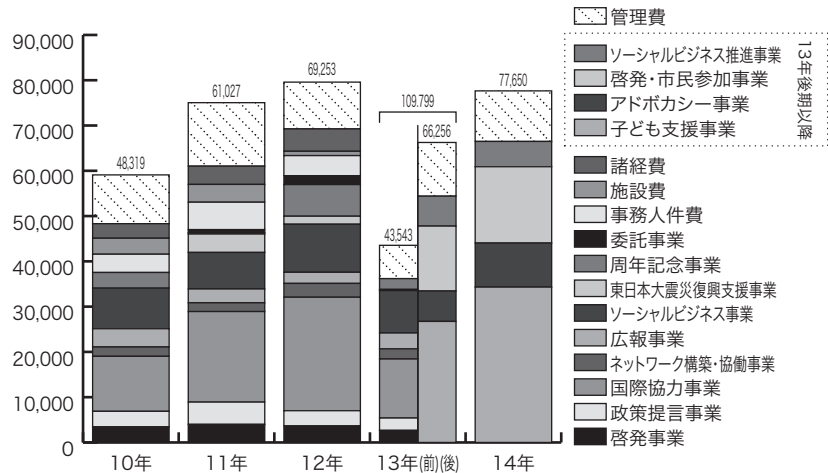
(単位：千円)



※2013年に事業年度の変更を行ったため、「13(前)決算」は、2013年1月～8月までの8か月間となります。

支出の推移

(単位：千円)



※2013年に事業年度の変更を行ったため、「13(前)決算」は、2013年1月～8月までの8か月間となります。

※2013年度(後期)より事業の編成を行い事業名を変更しています。

2010年度～2013年度(前期)の事業名

- 啓発事業
- 政策提言事業
- 国際協力事業
- ネットワーク事業
- 広報事業
- ソーシャルビジネス事業
- 東日本大震災復興支援事業
- 周年記念事業
- 委託事業

2013年度後期以降(現状)の事業名

- ソーシャルビジネス推進事業
- 啓発・市民参加事業
- アドボカシー事業
- 子ども支援事業

監査報告書

監査報告書

2013年2月19日

特定非営利活動法人 ACE

代表 岩附 由香 殿

特定非営利活動法人 ACE

監事 沢崎 寿雄

監事 大石 泰

特定非営利活動法人 ACE 定款第 15 条第 4 項の規定に基づき、2012 年度における理事の業務執行の状況及び財産状況について監査した結果、適正かつ正確であることを認めます。

以上

ご支援いただいた企業・団体一覧

2014年度も多くの企業、団体のみなさまにさまざまな形でご支援をいただきました。
あたたかいご支援に、心より感謝いたします。

●法人・団体会員

- ・ 特定非営利活動法人アース仏教国際協力ネットワーク
- ・ ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
- ・ 株式会社小宮コンサルタンツ
- ・ 仙台 ACE 支援書道教室
- ・ 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
- ・ 不二製油グループ本社株式会社
- ・ ロイドレジスター クオリティアシュアランス リミテッド
- ・ SU 小 ACE を支援する会
- ・ アシックス労働組合
- ・ 株式会社クレアン
- ・ 株式会社シンゾーン
- ・ 仙台児福会同窓会
- ・ 株式会社東京建設コンサルタント
- ・ みちのくポテトクラブ
- ・ 株式会社 budori
- ・ UA ゼンセン
- ・ 株式会社アバンティ
- ・ 興和株式会社
- ・ 株式会社新藤
- ・ 株式会社立花商店
- ・ フード連合（日本食品関連産業労働組合総連合会）
- ・ リシュモン ジャパン株式会社
- ・ OrangeOne 株式会社

●ご寄付

- ・ アエル株式会社
- ・ 株式会社エンゼルの森
- ・ グンゼラブアース倶楽部
- ・ 株式会社シンゾーン
- ・ 電通共済生協（電気通信産業労働者共済生活協同組合）
- ・ 株式会社ファンケル
- ・ 株式会社フェリシモ LOVE & THANKS 基金
- ・ 宮城学院 宗教部／高校生徒会
- ・ UA ゼンセン
- ・ NTT 労働組合（西日本本社総支部／東京グループ連絡会／群馬県グループ連絡会／東海総支部電ビル分会）
- ・ アサヒワンピールクラブ
- ・ 株式会社神奈川ナブコ
- ・ 国際ソロプチミスト仙台
- ・ 株式会社セールスフォース・ドットコム
- ・ 日興アセットマネジメント株式会社
- ・ ファンケルグループ「もっと何かできるはず基金」
- ・ 福岡黒田ライオンズクラブ
- ・ 森永製菓株式会社
- ・ 特定非営利活動法人 WE21 ジャパンほどがや
- ・ アシックス労働組合
- ・ キューピー株式会社 QPeace
- ・ 株式会社古藤事務所
- ・ ティ・ディ・パワーシステムズ・リミテッド日本事務所
- ・ 日本教職員組合
- ・ 株式会社ファンケル化粧品
- ・ 株式会社三笠商会
- ・ 株式会社ルミネ

※誌面の都合により、5万円以上の寄付をいただいた団体・法人のみ掲載しています。

●その他の協賛・協力

- ・ グロービス経営大学院
- ・ タカシマヤ 一粒のぶどう基金
- ・ リー・ジャパン株式会社
- ・ SHIBAURA HOUSE（運営：株式会社広告製版社）
- ・ BeatNix Corporation of America
- ・ 連帯社会研究交流センター

●助成金

- ・ 連合・愛のカンパ
- ・ 花王ハートポケット倶楽部
- ・ リコー社会貢献クラブ・FreeWill
- ・ 株式会社セールスフォース・ドットコム
- ・ 住友商事株式会社
- ・ 地球環境基金
- ・ MDRT Foundation-Japan
- ・ 東京都ワークライフバランス推進助成金

■ ACE の支援方法と用途について

認定 NPO 法人である ACE へのご寄付や賛助会費は「税額控除」や「寄付金控除」の対象となります。
みなさまのご支援、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

会員	正会員（子ども、一般）	ACE の事業と組織運営全体をご支援いただきます。正会員は総会の議決権を持ち、組織運営に参加いただけます。
	賛助会員（個人、企業、非営利団体）	賛助会員（個人、企業、非営利団体）には議決権はありません。
寄付	マンスリーサポーター	1,000 円以上の任意の金額を毎月ご寄付いただく制度です。寄付は国内外の各事業に使われます。
	ACE111 募金	児童労働をなくすための国内外の活動に使われる募金です。
	チョコ募金	カカオ生産地域での児童労働をなくすための活動に対する募金です。
	コットン募金	コットン生産地域での児童労働をなくすための活動に対する募金です。
	チャイルドフレンドリー募金	海外で実施する活動に使われる募金です。
基金	世界の子どもの権利基金	NPO 法人化 5 周年を記念し設立した基金です。周年事業の実施、新規事業や組織基盤の強化に使われます。

主なメディア掲載実績

2014/10/2	毎日新聞	広がるエシカル消費
2014/10/16	NHK 高校講座	「家庭総合」第22回 経済生活 「買う」ことで社会を変える
2015/1/29	毎日新聞	第3回エクセレント NPO 大賞
2015/1/29	毎日小学生新聞	児童労働のない社会へ
2015/2/2	毎日小学生新聞	チョコレートの原産国
2015/2/6	毎日新聞	カカオの生産地 森林減少 児童労働
2015/2/10	西日本新聞	「フェアトレード」選んで
2015/2/12	中日新聞	「映画で児童労働根絶」豊田 上映会、観客に訴える
2015/2/13	毎日小学生新聞	今ドキバレンタイン大作戦
2015/2/15	毎日新聞	発展途上国の子供を救おう
2015/3/1	ソトコト	チョコレートを通じて児童労働について考えよう。
2015/3/14	読売新聞	ライブラリー「夢や希望を与える教育の力」
2015/3/15	中日新聞	小中学生「児童労働の苦い現実」
2015/3/19	東京新聞	しみん発「児童労働をなくそう」
2015/3/29	毎日新聞	学びフェス 親子連れ出前授業に参加
2015/4/2	毎日新聞	児童労働 なくそう
2015/4/20	読売新聞	「エシカルファッション」紹介イベント
2015/4/28	朝日新聞	途上国製品はいかが ～来月9日世界フェアトレードデー～
2015/5/8	エフエム富士	『Good Day』トレンドSetter
2015/5/12	織研新聞	「2日間に拡大し開催 - エシカルファッションカレッジ」
2015/6/7	毎日小学生新聞	これからの世界のために
2015/6/11	東京新聞	しみん発「児童労働反対世界デー記念セミナー」
2015/8/13	織研新聞	エシカルファッションカレッジ 30歳以下の来場が目立つ、他

合計60件のメディア掲載を確認（*カイヤラシユ氏受賞関連（P.7に掲載）は除く）



遊ぶ、学ぶ、笑う。

そんなあたりまえを、世界の子どもたちに。



ピース・インド・プロジェクト実施地の小学校にて
Photo by Shiho Kito

www.acejapan.org

ACE

—あたりまえを世界の子どもに—

特定非営利活動法人ACE (エース)

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-6-4 あつきビル 3F
TEL: 03-3835-7555 / FAX: 03-3835-7601 (受付: 平日 10:00~18:00)
info@acejapan.org

ACE(エース)は、世界中のすべての子どもが権利を守られ、
希望を持って安心して暮らせる社会を実現するため、
市民と共に行動し、児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力NGOです。
東京都より「認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)」として認定を受けています。
認定NPO法人へのご寄付は「寄付金控除」と「税額控除」の対象となります。

発行：2016年7月31日 / 発行人：特定非営利活動法人ACE
※本書の一部またはすべてを無断で複写、転載引用することを固く禁じます。

